

「書きたくなった時に書いて、お届けします。」と気楽なスタンスから始めさせていただいた学校だより。ホームページは学校での出来事をブログ形式でお伝えするので、頭はあまり使わないのですが、まとまった文章をお届けする学校だよりとなると…。正直、少しランプに陥っておりました。

## ルーツを探る

私、よく友人等から「気を遣いすぎ!」と言われます。あんまり人に気を遣うと相手にも気を遣わせ、堅苦しくなると分かっているのですが、どうも遺伝子に組み込まれてしまっているようです。

もう35年も前になりますが、92歳で亡くなった祖父は、老人ホームに入っていた頃、見舞う私たちの方に、(逆だよ…)と思わせるほどの気遣いようでした。認知症で私たちのことが分からなくなってからも、介護士さんに「この人たちに椅子と、お茶を出してくれんね。」としきりに言っていました。介護士さんにもよく気を遣っていたそうです。

父は、その祖父の血を濃く受け継ぎました。息子の私に先を見越して「ほれ、ほれ」といろいろもてなしてくれます。あまり自慢できない光景ですが。

さて私は、いつぐらいから人に気を遣い始めたのでしょうか。記憶にあるのは、中学生の頃…。

父が土日、半ドン(早朝から昼までの勤務。父は宮交のバス運転手でした。)で帰って来る日は、それこそ母の代わりに(俺の出番だ!)とばかり屋食などの世話をしていました。一まず、食事(母が準備していたので、お皿に装うだけ)。次にお茶。そしてつまようじ。だめ押しで朝刊です。ただ、これをやれば良いってものではありません。父の行動パターンを熟知した上で行うのです、先を読みながら。

父が「ごちそうさん。」とはしを置くやいなや、すっと良い加減のお茶を出します。2、3口飲んだら「シー」とか言いながらつまようじを欲しがるので、すかさず差し出します。その後、茶の間で朝刊を開くのを見越して、その場所にさりげなく朝刊を置いておきます。父のために…というより、やって当たり前の義務と感じていたし、あまりにも絶妙なタイミングでもてなしができる自分に酔っていた気もします。大好きな野球と通じるものを見出していたのかもしれない。(野球のみならずスポーツは先を読むプレーが肝心ですからね。)

しかし、中学生からいきなり人への気遣いができるようになったのか。いや、これには下地づくりの段階があったようです。それは、やはり母の姿だった気がします。

共稼ぎでしたが、母は父の行動を最優先に家庭を回していました。母の行動で父の帰りが分かっていたいました。まず、私たち子どもに「運転で疲れてるから、怒られるようなことしたらいかんよ!」の声かけ。続いて、風呂の湯加



【凛々しいお父さん達】



【避難訓練へのご協力、ありがとうございました】

減と肌着の確認。そして温かい食事の用意。この間、「そろそろ」とか「おせいね」を何回かずさむことか。車が我が家の駐車場に入る音がしたら、さあ点火!とばかり母が別の『母』になったような感じを抱いていました。そんな毎日を過ごしているうちに、「**気遣うためには相手より先んずる、先んずるためには相手の行動パターンを知る**」ということに気づいたのだと思います。(気遣いするのは、馬鹿らしい。)(気遣いは、疲れる。)と思うことは当然あるのですが、遺伝子とこれまでの生活経験から、「性分」となってしまったようです。ちなみに、両親は鹿児島出身。男尊女卑の考え方や風習がまだ体に染み付いているのです。が、母は気が強く、「男尊女卑反対!」と叫ぶ部分も持ち合わせていたので、二人は喧嘩も結構していたのですよ。私も、母を見て(気を遣うのも、これぐらいにしとくか!)と、自分を冷静にさせる部分は備えることができました。

## 理解? 納得?

清武で二人暮らしをする両親は、今年で84歳と83歳。母の厳しい管理のもと、父はこれまで健康な暮らしを送ることができましたが、さすがに認知症や様々な疾患が出てきました。父は、バスの運転手だったため「運転のプロ」というプライドがあり、なかなか免許返納に応じません。母も買い物などの、ちょっとした用事に便利なので(近隣5キロ未満なら)と許容しています。あれほど健康管理に過敏になっていた二人ですが、最近、考え方や生活ぶりが随分変わってきています。

例えば、このコロナ禍、次のような態度や行動が見られます。

- ワクチンを進んで打とうとしない。
  - 屋食は、進んで外食に行く。
  - 家族(孫や親戚等)で集まりたいと強く願っている。
- まさに、感染防止対策とは真逆です。「もう、お父さんには好きなことをさせるから。」母の言葉が意味するものは?
- 身勝手な認知症で一層激しくなり手に負えなくなったのよ。
  - もう、お父さんは長くないのよ。

先日、ネットニュースで、大阪の90歳代のおばあちゃん達が、オミクロン株の猛威が吹き荒れる中、同窓会をしたことが話題になっていました。

「明日がどうかも分からない私たちは、コロナよりも今日を取りたいのよ。」

何だか、胸が締め付けられる話でした。コロナ禍で、人々はどうしたらよいのか、様々な意見や考え方が出ています。「理解と納得は別である」「多様化する社会では納得解が求められる」などと聞きますが、正直、私は混乱しています。

年若い両親が、寂しげに語ります。

「椎葉はあと何年ね?」「椎葉に行きたいね。」



【朝、元気に遊ぶ子ども達】



【5年花南さんの作品】